

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991000126		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	栃木県大田原市蛭田1795		
自己評価作成日	平成22年11月9日	評価結果市町村受理日	平成23年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームほのぼのは周囲を田畑に囲まれ、静かな環境の中にある。棟続きでデイサービスも併設されている事もあり、利用者様同士の行き来も盛んに行われている。近隣に小学校もあり、様々な行事の際に参加させて頂いている。今後は保育園との交流や地域の行事等に積極的に参加していきたい。また、こういった交流を通じて、当グループホームを認知して頂き、地域とのより良い関係を構築していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは周辺に小学校や田園地帯が広がり、子ども達の声や季節を身近に感じることが出来る環境に位置している。ホームにはデイサービスセンターが併設されており、職員間の連携が図られている。地域との交流は開所3年目であるが、地域の一員として自治会に加入し、近隣住民との交流や地域行事への参加の他、ホームの活動内容の周知や地域包括支援センターとの協力により、認知症への理解促進へ向けた認知症サポーター養成講座を開催する等、情報の発信にも積極的に取り組んでいる。また、入居者への安全管理にも力をいれており、定期的な防災訓練の実施により、迅速な避難誘導等の手順の確認に努めている他、有事の際に近隣住民からの協力体制の構築にも力を入れている。職員は入居者と共に過ごす時間を大切にしており、居室担当を設け、一対一での外出支援を行なう等、入居者の思いや意向の把握に努めた支援に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様それぞれの幸福を追求し、ご本人の意志を尊重した介護を目指す。全ての入居者様と職員が共に居心地の良い空間を作り上げていく事を理念とする	入居者一人ひとりの人格を尊重し、常に本人の立場に立ったサービスの提供に努める事を理念に掲げており、職員はワーカー会議やカンファレンス時等に理念の確認を行い、日々の支援において理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はまだ行えていないが、近くの小学校との交流があり、今後小学校以外の地域の方々と交流できる様に努めていきたい。	自治会に入会し、回覧板でホームの広報誌を回覧してもらおう等、地域へ事業所の活動の周知に努めている。また、地域包括支援センターの協力の下、認知症サポーター養成講座を開催する等、地域への認知症の理解促進にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6月に地域包括支援センターと協力して、「認知症サポーター養成講座」を開講することができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度、入居者、家族代表、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市担当職員等の参加により開催している。会議ではホームから支援状況の報告や参加者から素直な意見や要望等が出されており、協議を重ねながらサービス向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡を密に取っているとは言えないが、運営推進会議等で意見交換を行い、協力関係を築くようにしている。	市担当者には運営推進会議の参加時にホームの現状や課題を把握してもらっている他、制度上の情報提供や支援に関するアドバイスをもらう等、市と連携を密にしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組めている。	職員は研修等で身体拘束によって入居者に与える身体的、精神的苦痛について理解を深めており、身体拘束に該当する行為等の共通認識を図り、抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。玄関は職員の見守りにより、施錠をしない支援に取り組んでいる。	

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努められている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	時々学びの機会はあるが、活用できてはいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、不安な点や疑問点が生じた場合は言って下さいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者様・ご家族代表の方に出席して頂き、ご意見を頂いている。	家族からの意見や要望はホームにとって大切な宝と受け止めており、出された意見等を検討・協議しながらサービスに反映させている。また、入居時にはホームの苦情受付担当者や外部の苦情受付機関等の説明をしており、苦情等を表せる機会がある事を説明している。	今後、ホームの活動内容や職員等を広報誌等を利用して周知を図っていくと共に、家族との馴染みの関係の構築や家族間での交流の機会を設ける等、意見や要望等が表しやすい環境づくりに取り組まれる事を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ワーカー会議や職員会議を行っているが、運営に関しての意見は出ていない。	毎月のワーカー会議や職員会議において職員の意見等が表せる様になっている他、職員自らが気付いた点等をノートに記入している。管理者はサービスの質の確保における核心の一つは、入居者と職員の馴染みの関係づくりが重要として、日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境・条件の整備に努められていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行い、認知症実践者研修等に毎年1人ずつ受講できる様に考えている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス部会等の勉強会でサービスの質の向上をしていく取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望等に耳を傾け、安心して過ごしていける様に努めている。また、ご家族の方ともきちんと相談して決めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その様に努めているが、他のサービスを利用している方はいない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料金を現金払いにして、月に1度は入居者様の顔を見て頂ける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設のデイサービスを利用している方(昔からの顔なじみ)との交流を行っている。また、外出の機会等に馴染みの所へ行ける様な機会をつくっていきたい。	入居者がこれまで培ってきた人間関係や社会とのつながりを家族等から確認しており、家族の協力も得ながら関係の継続が出来るよう取り組みを支援しており、誕生日等には家族と共に外食等に出かけてもらう様にしている。また、居室担当を設け、職員と1対1で個人的な馴染みの場所へ出掛ける等している。	

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できていると思う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談・支援に努めて行きたいと思うが、今のところ相談はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向の把握に常に努めている。把握が困難な場合はご家族と相談し、できるだけご本人本位になる様に努めている。	日々の関わりの中で声掛けを行い、言葉や表情等から真意を推し測り、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、家族等からの情報も得ながら、本人本位に検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前に、ご家族・ご本人に聞き把握に努めている。また、入居後も必要に応じてご家族やご本人に確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事や入浴、排泄など把握し、ご本人の現状把握に努めている。 また、それぞれに合った過ごし方ができる様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画ができる様に努力している。	本人及び家族のニーズを踏まえ、ワーカー会議や連絡ノートを活用して介護計画を作成している。見直しはアセスメントやモニタリングを行いながら3ヶ月毎に行なっている他、状態に応じた見直しも随時行い、家族等にも報告をして了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のワーカー会議で入居者様それぞれの現状について話し合い、介護の実践や計画の見直しに活かしている。また、細かい事は連絡ノートを活用し始業前に読み、情報の共有化を図っている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はまだ努力が必要だが、安全で豊かな暮らしを楽しめる様な努力はしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入居者様とご家族に決めて頂いている。適切な医療を受けられる様に支援ができていると思う。	本人及び家族の希望するかかりつけ医での受診を支援しており、受診時の付添いも家族にお願いしているが、ホームの協力医療機関での受診の際には職員の付き添いで対応している。また、入居者の状態や受診結果、服薬に関する情報の共有も図っている。居宅医療管理指導として、月2回ホームにて協力医の指導を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデイサービスの看護師と相談し、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や受診時に情報交換・相談を行い、病院関係者との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居様・ご家族と話し合い、方針を決めている。	重度化や終末期に向けた本人及び家族の意向を踏まえながら、対応方針の共有を図っている。今後はホームの力量を考慮しながら、家族や医療機関等と連携を図りながら、できるかぎり要望に沿った支援に取り組んでいきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えてないので、今後検討していきたい。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っている。今後は地域との協力体制を築いていきたい。	年2回消防訓練を実施しており、通報、消火、避難誘導の手順を確認している。また、地域住民にも緊急連絡網に入ってもらおう等、地域との協力体制も築いている。飲料水等の備蓄にも取り組んでいる。	災害はいつ、どの時間帯に起きるかわからないことから、昼夜を問わず様々な時間帯を想定した避難誘導ができる様、避難手順の把握に努めていくことに期待したい。また、地域との連携も運営推進会議や広報誌等を利用して、今後も協力を呼び掛けて行く事にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々気を付けながら言葉かけ・対応をしている。	入居者一人ひとりの尊厳や権利を保障し、人格を尊重することが対人援助の基本原則として心得ており、職員は目立たずさりげない言葉かけや自己決定しやすい言葉かけに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できていると思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間や起床時間、食事時間など入居者様のペースを把握し、ご本人の希望に添って支援できる様に努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や着る服もご本人と相談している。意志の表出が困難な方も毎日同じ服にならない様に気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できるだけそうしているが、全員はできていない。	食材は週3回買出しに出かけており、献立はその日の担当職員がメニューを作成し、調理をしている。職員は朝食と夕食は入居者と一緒に同じ物を食べているが、昼食は介助や見守り支援等により食べてはいない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食チェックしている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを把握し、適切な声かけを行い、なるべくオムツを外せる様に努力をしている。	入居者の排泄パターンを記録し、生活リズムに沿った声かけや誘導を行い、オムツやパット等を使用している場合でもできるかぎりトイレでの自立した排泄に向けた支援に取り組んでいる。排泄の失敗時には本人のプライドや羞恥心に配慮し、人目に触れないようさりげない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけではなく、野菜ジュースを飲む・運動を促す・腹部マッサージを行う等、個々に応じた予防を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日によって決まっているが、希望があった場合は柔軟に対応できる様にしたい。	入浴は昼食後から夕方にかけての時間帯で、概ね1日置きに入浴支援をしており、入浴時間や回数等は希望によって柔軟に対応している。また、入居者から同姓介助を希望された場合には、同性職員により希望どおり対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調やご本人の希望により、休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服薬中の薬の一覧表を各自確認している。副作用に関しては、もっと勉強が必要だと思う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたんだり、掃除などを手伝って頂くなどしている。ご本人の希望でぬり絵をしたり、楽しみの機会を設ける努力をしている。		

グループホームほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出できているとは言いがたいが、出かけるときは入居者の希望に添った外出ができる様に努力している。	ホーム周辺の散歩から夏の花火大会や夏祭り等の地域行事、誕生会や初詣等の年間行事を取り入れた外出支援に取り組んでいる。また、個別の希望による買い物等にも出かけており、地域との交流や入居者の意欲や自立を保つために、外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は職員側が預かっているが、外出の際などご本人で支払いができる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある入居者様にはしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃には気を付けている。もっと季節感を取り入れた空間を作れる様に努力していきたい。	共有空間は天窓が設けられた明るい空間に和みのある畳の部屋等が配置され、季節間を活かした飾付けも行なわれており、入居者の五感を意識した居心地良い空間が作られている。また、清掃が行きとどき、温度や湿度、換気も適切に管理されており、不快な臭い等もなく快適な住空間が提供されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う入居者様同士それぞれ過ごされていると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できている。	日当たりの良い各居室には家族等の協力により馴染みの品々が持込まれており、入居者のプライバシーに配慮した居心地良く、安心して過ごせる環境がつけられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できている。		